

国立大学法人東京外国語大学 第 89 回経営協議会議事要旨

I. 日 時：2023（令和 5）年 10 月 30 日（月） 13：28～15：06

II. 場 所：ハイフレックス形式（本部管理棟 2 階中会議室とオンライン）

III. 出席者：(1) 委 員：猪熊委員、寺田委員、來生委員、坂本委員、関谷委員、
林委員、大谷委員、青山委員、成瀬委員、鈴木委員、
川村委員、近藤委員
(以上 12 名)
(2) 陪席者：篠原副学長、中山副学長、菊池副学長、春名副学長、
大津学長特別補佐、巽学長特別補佐、三宅言語文化学部長、
千葉国際社会学部長、渡部監事、柄監事、田中総務企画部長、
高尾学務部長 外

IV. 審議事項：1. 学長選考・監察会議委員の選出について
2. 令和 5 年人事院勧告への対応について
3. 2023 年度第 1 次学内補正予算について
4. 保谷職員宿舎の売却について
5. 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書
について
6. その他

V. 報告事項：1. 2024（令和 6）年度概算要求について
2. 令和 6 年度施設整備費概算要求事業の評価結果について
3. 令和 4 事業年度財務諸表の承認について
4. 経営協議会委員からの主な意見への対応状況について
5. 大学の近況等について
6. その他

VI. 懇談事項：1. 本学の将来像について
2. その他

- VII. 配付資料：1. 国立大学法人東京外国語大学経営協議会委員名簿
2. 国立大学法人東京外国語大学第 88 回経営協議会議事要旨（案）
3. 国立大学法人東京外国語大学学長選考・監察会議委員（案）
4. 令和 5 年人事院勧告への対応について（案）
5. 2023 年度第 1 次学内補正予算について（案）
6. 保谷職員宿舎の売却について（案）
7. 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（2023 年度）（案）
8. 2024（令和 6）年度概算要求について
9. 令和 6 年度施設整備費概算要求事業の評価結果について
10. 令和 4 事業年度財務諸表の承認について（通知）
11. 経営協議会学外委員からの主な意見への対応状況について
12. 東京外国語大学の近況について 等
13. 参考資料：他大学の状況について

林学長から、議事に先立ち、配付資料 1 に基づき、10 月より柄 前委員の後任として木部委員を任命した旨、報告があった。

また、林学長から、配付資料 2 に基づき、前回の議事要旨（案）を確認願いたい旨、発言があり、これを確認した。

VIII. 審議事項：

1. 学長選考・監察会議委員の選出について

林学長から、配付資料 3 に基づき、学長選考・監察会議委員の選出について説明があり、審議の後、柄 前委員の後任として、木部委員を選出することを承認した。

2. 令和 5 年人事院勧告への対応について

大谷理事・事務局長から、配付資料 4 に基づき、令和 5 年人事院勧告への対応について説明があり、審議の後、これを承認した。

3. 2023 年度第 1 次学内補正予算について

松下会計課長から、配付資料 5 に基づき、2023 年度第 1 次学内補正予算について説明があり、審議の後、これを承認した。

4. 保谷職員宿舎の売却について

小林施設企画課長から、配付資料 6 に基づき、保谷職員宿舎の売却について説明があり、審議の後、これを承認した。

5. 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書について
林学長から、配付資料7に基づき、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書について説明があり、審議の後、これを承認した。

IX. 報告事項：

1. 2024（令和6）年度概算要求について
林学長から、配付資料8に基づき、2024（令和6）年度概算要求について報告があった。
2. 令和6年度施設整備費概算要求事業の評価結果について
林学長から、配付資料9に基づき、令和6年度施設整備費概算要求事業の評価結果について報告があった。
3. 令和4事業年度財務諸表の承認について
林学長から、配付資料10に基づき、令和4事業年度財務諸表の承認について報告があった。
4. 経営協議会委員からの主な意見への対応状況について
林学長から、配付資料11に基づき、経営協議会委員からの主な意見への対応状況について報告があった。
5. 大学の近況等について
林学長から、配付資料12に基づき、大学の近況等について報告があった。

X. 懇談事項：

1. 本学の将来像について
林学長から、配付資料13に基づき、他大学の状況について、報告があった。
報告の後、本学の将来像について、懇談が行われた。委員からの主な意見等は次のとおり。
 - ・理科系の研究には多額の予算が必要であることは理解できるし、競争力を担保しようとする、特定の分野では、分散的な投資よりは集中的な投資が有効であると思う。ただし、研究の面で何が成功するかは事前には分からない面もあり、大学政策として、均等主義的な配分や研究者の自発的な参集の規模に応じた補助等、「一点豪華主義」という考え方ではない新しい仕組みの構想も含め、全体として、資源配分を考え直す必要があるのではないか。また、大学という組織は、教育面において人材を育成し、

研究面において新しい知を創造している。いずれにせよ、効率性を重視し、成功の確率を高くするといった目標には、馴染まない側面がある。なお、本学は、文科系の大学であり、運営資金を確保する必要はあるが、自然科学系の大学ほどの巨額な予算を必要とするわけでないので、独自性や多様性をいかに担保するか、財務面でも考えることが大事な時期になりつつあるのではないか。

- 本学は、海外事情に関して、日本を牽引してきた大学であり、国際系の大学や学部が増えつつある中でも、これからもリーダーシップをとって、海外事情のことなら東京外国語大学という状況を作り出すことが重要ではないか。そのためには、本学の持つリソースや、多言語版・漢字学習アプリ「たふマルリン」や言語モジュール等、様々なプロジェクトの成果を社会に発信し、そのような発信を積み重ねていくことが肝要である。
- アメリカでも 18 歳人口は減少しているが、アラバマ大学のような州立大学が、かつてないほどの学生を集めている。ハーバード大学やイェール大学等の有名な大学は、今までどおり、「私たちの素晴らしい大学にご入学おめでとうございます」といった合格通知を出しているが、アラバマ大学のような州立大学は、「あなたのような学生が、当大学に入学すれば、将来、このような道が開けます。そのために、大学としてはこのような支援を行います」といった内容を合格通知に記載している。本学でも、自分の未来が見えるような、例えば、「この専攻に入学すると、この先輩みたいになれますよ。この留学先にも行けます。外務省で働けます。本学には、このようリソースやコネクションがあります」といったことを具体且つ事前に合格者に提示できれば、入学前からモチベーションが上がり、入学後も学生が何を勉強するか、何をすればいいかがもっと明確になるのではないか。
- 先日開催された本学の建学 150 周年記念式典の中で行われた本学の卒業生であるウクライナ在中のジャーナリストと NHK のキャスターとの対談などは、本学ならではのものであり、是非、このような本学ならではの魅力を発信することでたくさんの優秀な学生と予算を引き寄せてほしい。
- 「本学の将来像」という大きなテーマだが、本学の進むべき方向性は、比較的、明確に把握されていると感じた。一つは、言語を踏まえて、世界諸地域の文化や社会を理解する人材を育成し、知見を還元していきたいというもの。もう一つは、日本に来る留学生等に対して日本語を通して日本を伝えるというもの。後者の方は、様々な事業が展開されていることを理解したが、前者の外国語をベースとした世界諸地域を理解する人材育成の重要性を、社会に伝えるのは難しい。そのような状況の中で、TUSF 地域研究センター (TASC) を立ち上げられた。当該センターが積極的に取り上げたいという「政策シミュレーション」というものの具体的な内容は分からない部分もあるが、このような組織を立ち上げて、社会に向けて世界諸地域に関わる情報発信を行っていくことが重要ではないか。また、「日本語で読む世界のメディア」の HP を閲覧し

たところ、イスラエルの情報など、今、話題となっている地域のかかりの記事を翻訳しており、このような取組みも、もう少し社会に発信できるとよいのではないか。世界展開力強化事業に採択された「太平洋を《架橋》するブリッジ・パーソン養成プログラム」について言えば、結局、それが実現するものは何なのか、言語化されるとよいように思う。

以 上